

知多半島医療圏における災害医療対策について

1 今年度のこれまでの取組～平成29年度知多半島医療圏災害医療対策研修会～

(1) 概要

	北部地域	中南部地域
対象市町	東海市、大府市、知多市、東浦町	半田市、常滑市、阿久比町、南知多町、美浜町、武豊町
日時	平成29年6月2日(金) 午後2時から午後4時30分まで	平成29年5月19日(金) 午後2時から午後4時30分まで
場所	知多保健所 2階大会議室	半田保健所 4階大会議室
出席者	講師 1名 地域災害医療コーディネーター 3名 市町 7名、消防 5名、オブザーバー 2名 事務局 13名 合計 31名	講師 1名 地域災害医療コーディネーター 3名 市町 10名、消防 5名、オブザーバー 1名 事務局 11名 合計 31名

(2) 講師

愛知医科大学災害医療研究センター 講師 小澤和弘氏

(3) 研修内容

ア 講演：知多半島医療圏における災害医療対策について～南海トラフ地震に備えて～

(ア) 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等の想定試算結果における被災予測「理論上最大想定モデル」〔冬深夜発災、早期避難率低、ケース①〕によると、知多半島医療圏では、死者数 5,600 人、重傷者数 5,000 人、軽傷者 11,900 人の被害想定である。ちなみに、愛知県全体では、死者数 29,000 人、重傷者数 26,000 人、軽傷者 74,000 人の被害想定である。

(イ) すべての傷病者に医療を提供することはできない。

(ウ) 自助、共助、公助というが、医療側の供給量は少ないことを住民にきちっとした意識を持って対応していかなければ、行政だけでは対応しきれない。患者搬送に対しても住民に協力してもらわなければならないだろう。

(エ) 対策を立てれば減災できる。だから、事前に計画を作って少しでも犠牲者を減らすようにしていただきたい。

(オ) 重症者の搬送に関して、半田運動公園を前線型 SCU の一つとして考えていただきたい。

イ 地域災害医療コーディネーターからの主な助言

(ア) 半田病院 田中地域災害医療コーディネーター

市町は、発災してから 36 時間の間、外傷の重症者をどうするかを考えていただきたい。どのような体制でその方を診療室に集めてどこへ運ぶか。すべては 36 時間程度の間に生死が決まる。48 時間、72 時間後にたくさんの外傷患者は出てこない。

(イ) 知多厚生病院 水野地域災害医療コーディネーター

各市町の方は県が助けてくれると思わないほうがいい。市町でやれることは市町で、市町の中でも、自治会等各住民の 1 人ひとりが災害に対する意識を持っていただきたい。県も国もあてにならないことを覚悟して防災計画を立てていただきたい。

(ウ) 公立西知多総合病院 有木地域災害医療コーディネーター

市町では連絡網・避難所・救護所・ライフラインの対策が中心になって、多くの傷病者に対して具体的にどう誘導していくかということまで考えが及んでいないかと思う。近くの病院がなんとかしてくれるのではないのかという考えがどこかにあるだろう。しかし、正直、この傷病者数はさばききれるものではない。市町の対策として、地域住民に対してこの現状を知っていただく広報活動が重要である。

2 今後の予定

(1) 平成29年度南海トラフ地震時医療活動訓練

ア 日時：平成30年1月21日(日)午後1時から午後3時30分まで

イ 場所：半田運動公園

(2) 平成29年度知多半島医療圏災害医療部会

ア 日時：未定

イ 場所：半田保健所

3 その他

南海トラフ地震の被災想定では、知多半島医療圏は被害が大きいと予想されています。大規模災害発生時の医療対策は、知多半島全域が総力をあげて対応しなければなりません。今後とも御理解御協力をよろしくお願いいたします。